

月刊 やちまなこ

2012.5.15 発行

No. 174

5 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより

今年のゴールデンウィーク後半は雨の影響で湖の水位も高く、湿原を流れる川も同様に勢いよく音を立てながら流れている。

木々の芽や草などは春の陽射しを受け、鮮やかな緑色に輝き、鳥たちの鳴き声が聞こえる丘の斜面は淡いピンク色に染まり、季節の色彩が霞んで見えた。



コッタロ川と湿原のほとりから

143 5月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

春暖の候，“ホーホケキョ！夢に飛び込む夜明けかな”と駄作をひねって喜んだのも束の間，再び春愁真只中。ぎりぎり+0の朝を迎えております。思えば晴天らしき日は10日足らずに終わった4月に続いて，霧雨，雷雨，暴風雨，ひょうの降る5月の始まりは3月に後戻りしてしまった様です。

ところで4月3日の洪水で二度目の営巣を余儀なくされた丹頂3番はそろそろ終盤に入り，またもや水害に見舞われないよう祈らずにいられません。

一方，雨は天恵の蛙達は大雪後の爆発的繁殖で例年の何十倍もの勢いが見られ，地も割れんばかりに大合唱を響かせておりました。が，それも一段落した今，水辺には夥しいオタマジャクシの群が泳ぎ出しているではありませんか。気をつけなければならないのは至る所にオンプ蛙がいて，ポツェリ膨らんだ赤色の背にしっかり張りつくもろとも踏んでしまいそうになり，間もなく第二弾の合唱が始まる前兆なのでしょう。

さて，極度に減少してしまって観ることが叶わなかったマヒワやウソ等冬鳥達に比べ，夏鳥の渡来は順調で，とりわけ賑やかなオオジシギは，遠くオーストラリアからの長旅もなんのその，囀り乍ら天かける大空には5羽の姿が見られます。止まり木に止まっている時は殆んど意識されない短い尾羽を扇形に広げるのが特徴のようですね。



特筆すべきは最早絶滅したものと認識されている『幻の魚イトウ』に全くもって思いがけず出くわしたのは，日課にしている川の見廻りを兼ねたゴミ拾いの途中，ひょっこりのぞき込んだ水面での一瞬の幸運でした。しかし乍らこれは，失われ行く自然を目の当たりにして生きる我等に「貴重な証」として記録する定めと考えられましたのでここに提示しておきます。

さても別れ霜ならぬ雪さえ降り積むこのところの著しい気象変化には予断を許さぬ畏怖を覚えますが，確実に大地は緑色を帯びつつあって“ゆさゆさと春が行くぞえ野辺の草一茶”に励まされる昨今です。



湿原の住人たち その134

一年中生息するお馴染みのスズメとそっくりの「ニューナイスズメ」が見られる季節になりました。スズメと違い頬に黒斑が無く、雄の頭から背中の色はスズメより赤茶色です。雌はオリーブ系の地味な色合いで白い眉が目立ちます。写真は蝶の森周辺で出合った雄で、明るい林の高い木の枝先にとまって歌っていましたが、仲間がくるとすぐに追いかけてこをはじめてしまいました。今年の釧路湿原は彼等の目にどう映っているのでしょうか。

ニューナイスズメ



渡り鳥の中継地を実感！シラルトロ湖・蝶の森周辺で観察会



4月22日、タンチョウコミュニティ代表の音成邦仁さんを講師に「春のバードウォッチング」を開催しました。昨年は荒天の為中止になりましたが今年はお天気に恵まれ、40の瞳でゆっくり鳥を探しながら散策しました。北へ帰るヒシクイやオオハクチョウは栄養補給を、南からやってきたノビタキはなわばり宣言？を、通年見られるトビは一足早く抱卵中で、巣作り中のコゲラやキバシリなど、この時期ならではの野鳥のくらしを講師の楽しい解説を聞きながら観察、26種確認しました。

今月12日には「釧路湿原の野鳥たち」を開催しました。低気圧の影響で風が強く、湖は白波が立ち、水鳥の姿は見え、蝶の森へと向かいました。エゾエンゴサクが咲く草地ではアオジの姿、辺りの林ではセンダイムシクイのほかヒガラの群れやつがいのコムクドリなどを観察しました。

講師の長尾芳文さん（日本野鳥の会会員）から「野鳥たちの暮らしている場所は、林や草地、沢沿い、湿地、湖など種類により決まっているので、野鳥を通して環境の様子もわかります」と説明がありました。20名の参加者も冬支度で、時折ちらつく雪に驚いたのは人間ばかりではなく、観察した22種類の野鳥たちも驚いたかもしれません。



つぼちのフィトンチッドの森うろうろ日記 Vol.62 「幻の消えた沼」

5月のGW後半は釧路地方も荒れた天気となり、雷雨に襲われました。塘路周辺も大雨の影響で、塘路湖の水かさも1m程上がり満々と水をたたえています。塘路湖の周辺には国道や町道をはさんで、湿地が広がっていますが、道路の下で塘路湖と繋がっているらしく、塘路湖の湖水面とほぼ同じ高さまで水位が上がります。フィトンチッドの森より西側に広がる湿地帯では、水位の上昇により冠水し、池ができていました。

実はかつてフィトンチッドの森の西側には沼があったと記録されており、明治時代の地図には沼が記されています。昭和初期頃までは、5m程の大きさに縮小しながらもあったそうです。沼の名前は残されていません。その後、沼は消えてしまったのですが、かつての姿を垣間見た思いです。

坪岡 始（標茶町郷土館学芸員）



5・6月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

夏鳥ウォッチング

[日時] 6/9 (土) 10:00~12:00

[定員・参加料] 15名、無料

[場所] シラルト口湖・蝶の森周辺

[持ち物] あれば双眼鏡

問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで 015-487-3003

湿原の夏鳥ウォッチング [日時] 5/27 (日) 9:00~11:00

春の湿原花ハイク [日時] 6/10 (日) 10:00~12:00

申し込み 問い合わせは 温根内ビジターセンターまで 0154-65-2323

塘路湖・シラルト口湖・コッタ口湿原周辺の自然情報

【植物】(4/20)エゾエンゴサク (4/28)ヒメイチゲ (4/30)ウラボロイチゲ・アズマイチゲ・ミズバショウ・ネコノメソウ (5/1)キバナノアマナ (5/7) オオウバユリの芽 (5/8)キタコブシ・コゴミ・コウヤワラビ・コウライテンナンショウの芽 (5/14)オオバナノエンレイソウ

【鳥】(4/16)ヒドリガモ・ホオジロガモ・ミコアイサ・カワアイサ・キンクロハジロ・オジロワシ (4/20)オオワシ・コガモ・ヨシガモ・ノビタキ・カワラヒワ (4/22)ヤマゲラ・アカゲラ・コゲラ・キバシリ・オオジュリン・ノビタキ・アオサギ・タンチョウ・ヒバリ・(シマ)エナガ・ベニマシコ・アリスイ・ニューナイスズメ (4/24)ユリカモメ (4/26)オオジシギ・アオジ (4/27)ウグイス・ツバメ・ショウドウツバメ (4/28)アカエリカイツブリ・(ミヤマ)カケス (5/5)アカハラ (5/8)エゾムシクイ・ヒシクイ (5/12)センダイムシクイ・オオハクチョウ (5/14)セグロセキレイ

【その他】(4/21)エルタテハ (4/22)エゾアカガエルの合唱 (4/26)シラルト口湖全面解氷 (4/28)ヒオドシチョウ (4/29)塘路湖全面解氷 (5/4~14)道道クチョロ原野塘路線・道路冠水のため通行止め (5/14)エゾシマリス

6月30日まで「春季山火事発生危険期間」です。この時期は空気も乾燥して野火も起こりやすいので、野外での火の取り扱いには十分注意してください。

日出・日入時間 5/15(3:59,18:39)・5/31(3:47,18:54)・6/14(3:43,19:03)



久しぶりの日向ぼっこ? (EMC 横 5/14)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail:emc@hokkai.or.jp

開館時間 10:00~17:00 (11月~3月は16:00まで)

休館日:毎週水曜日 12月29日~1月3日 入館無料